

人文社会科学部後援会事業実施報告書

申請者氏名：伊藤哲司

申請 No. 1-1（事業費）

事業区分：学生の教育研究活動支援

対象学年：3年次8人 4年次以上6人（うち支出者14人）
（このほかに学部研究生1人が参加）

内容

報告項目：伊藤哲司ゼミ合宿（2025年8月27日～29日、栃木県那須塩原市）

報告内容：以下に記述

『GOODNEWS』におけるサステナブルなまちづくりを学ぶゼミ合宿

現代社会学科国際・地域共創メジャー教授 伊藤哲司

1. ゼミ合宿のねらいとテーマ

本合宿は、「那須の地域資源を活用したサステナブルな取り組みの実践的調査と、その自地域への応用可能性の検討」を主要テーマとして、2泊3日の日程で実施した。近年注目されるSDGsや地域創生といったテーマに対し、座学で得た知識を実社会の現場で検証し、実践的な思考力を養うことを最大のねらいとする。具体的には、那須地域の複合施設「GOOD NEWS」を主要な調査地とした。同施設は、那須ならではの自然・農業資源を活かし、サステナビリティを意識した多様な事業を展開している。参加学生は、施設の利用者やスタッフへのインタビュー調査を通じて、これらの活動がサステナブルなまちづくりにどのように貢献し、地域経済や社会にどのような影響を与えているか検証した。

このフィールドワークから得られた知見を基に、「GOOD NEWSの活動をヒントに、私たちの生活圏である茨城県の地域活性化や、同様の社会課題解決に応用可能な新しいアイデア」を創出することに焦点を当てた。

2. GOODNEWS におけるフィールドワークとインタビュー

合宿初日午後、那須の地域創生複合施設「GOOD NEWS」において、フィールドワークとインタビュー調査を実施した。調査は、以下の2つのフェーズで構成した。

1. **施設・事業担当者へのインタビュー**：那須の酪農資源を活かしたバター製造・販売や、フードロス削減を目指す取り組みなど、施設内で展開されている具体的なサステナブルな活動について、その事業理念と運営戦略を詳細にインタビューした。
2. **施設利用者への意識調査**：施設内で無作為に選定した来場者に対し、GOOD NEWS の取り組みに対する認知度や共感度、また「サステナブル消費」に対する意識の変化について簡易なインタビュー調査を実施した。これは、地域住民や観光客が環境配慮型施設をどのように評価しているかを測ることを目的とした。

調査終了後には、施設スタッフの方に質疑応答の時間を設けさせていただき、活動全体を通して生じた疑問点を解消し、理解を深めた。





参加したゼミ生（15名：非正規生である学部研究生1名を含む）

使用した経費（1人あたり）

宿泊代（素泊まり2泊）17,662 円

交通費は、4台の車のガソリン代



